

神奈川県開成町議会

(事績 1) 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

(1) 議員 1 人 1 台配付のタブレット端末を活用した ICT 化の促進

令和 2 年 12 月に、議員 1 人 1 台のタブレット端末を配付し、同月の定例会議から、タブレット内に議案等を格納したペーパーレス議会がスタートしました。

令和 3 年 1 月以降は、議会運営委員会、各常任委員会、各委員会の会議資料を全てタブレット端末に格納し、令和 3 年 9 月定例会議では、決算書を全てタブレット端末に格納し、一人あたり約 300 ページの紙資源を使うことなく審議し決算認定を行いました。

その後も、令和 4 年 3 月定例会議では、予算書も全てタブレット端末に格納し、年間約 1 万 7,000 枚の紙の消費削減につながりました。

ペーパーレス化は、ただ紙を削減することが目的ではありません。膨大な紙資料を議員に配付する作業時間が短縮され、議員も時間に制約されずに、いつでもどこでも会議資料に目を通すことが可能となり、議会全体の事務効率向上につながっています。

また、令和 3 年 7 月に設置された開成町議会 ICT 化推進委員会では、タブレット端末を使用し、試行的にオンライン委員会を定期的の実施しています。

オンライン委員会では、タブレット端末で事前に撮影した写真を議員間で相互に共有したり、令和 4 年 9 月 4 日に実施した町防災訓練では、各議員が各地区の防災訓練会場から、双方向通信コミュニケーションツールを利用して現状報告したり、より実践に近い取組みを実施しました。

今後も、各常任委員会等で、オンライン会議の本格実施も視野に入れた研修を重ね、また、災害時においても議会活動の平常化を意識し、議会業務継続体制を見据えた取組みを推し進めます。

さらに、タブレット端末を利活用した取組みとして、議員がタブレットで動画を撮影し、撮影した動画を編集することも、令和 4 年 4 月からスタートしました。

具体的には、毎年、議員が町内各地区に出向き、議会の活動報告を実施してきた「議会報告会」の動画配信です。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2 年間、止む無く延期しておりましたが、議会活動を広く町民に報告する手段として、動画で議会報告会を配信できないかと議員から発案があり、手元にあるタブレット端末を活用し、12 人の全議員が協力して約 20 分の議会報告会動画を制作しました。

動画「議会報告会」は、約 20 分の長編ですが、テンポよく飽きさせることない編集を心がけ、長時間にわたり議員間で議論しました。例えば、最も伝えたい内容を各委員会 2 分以内で報告することや、難しい用語や長いフレーズには、動画に字幕を挿入し、各委員会で BGM を変えるなど、工夫が施しています。

創意工夫した内容としては、可決した令和 4 年度当初予算の主要事業の現場に、実際に議員が行き、「これから予算がどのように使われて」「どのようなまちづくりが行われていくか」を現地から説明する場面があります。執行者である町側でも、予算の使い道を現場に赴き説明する動画はありません。議会はしっかりチェック機能を果たしてくという意思の表れです。

タブレット内には、撮影した動画をつなぎ合わせるアプリケーションが常備されています。初めての試みですが、編集・制作を議員自ら行っているため、特別な費用もかかっていないところも工夫の一つです。

動画「議会報告会」は、令和 4 年 4 月 23 日に新規開設した開成町議会 YouTube チャンネルで配信を開始しました。広報手段としては、広報紙、Facebook 等 SNS で周知しました。

令和 4 年 9 月 23 日時点で予想を上回る約 1,500 回の視聴回数があり、動画での議会報告会についてのアンケートでは、「見やすい」、「気軽に時間帯を気にせず見ることができる」等の好意的な意見が寄せられました。

これからも、タブレット端末した動画撮影及び編集の研鑽を重ね、技術の向上を図りつつより親しみやすい議会となるよう発信を続けてまいります。

(2) 意見書提出権を積極的に活用した取組

令和 3 年 8 月頃は、国内における新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の兆しが見えない状況にあり、さらに感染力が強いとされている新たな変異ウイルスの出現による感染爆発の歯止めが効かず、今まで以上に感染予防対策の実施や医療提供体制の充実が求められていました。

そのような中、感染防止対策の切り札として期待されているワクチン接種については迅速に進める必要があり、開成町においても、政府（国）が示した 11 月までに接種完了の実現に向け、地元医師会、各医療機関との連携のもと、広く地域全体の感染予防という観点から、ワクチン接種を進め、その推進に尽力してきましたが、開成町においては、依然として希望する全ての町民に対し、接種できるワクチン量が配分されず、医療機関等に接種の加速化をお願いすることもできないのが状況でした。

河野内閣府特命担当大臣（当時）会見の質疑応答において、「第 15 クールまでの配分が事実上最後の計画か」という質問に対し、「第 16 クール以降も必要であれば配分する」と発言されていることをうけ、開成町議会として、接種の加速化による国民の安全、安心を考えれば、早急に第 16 クール以降の配分を行うべきと考え、接種が進んでいない市町村の状況を勘案し、早急に第 16 クール以降の配分計画を示し、必要なワクチン量を安定的に供給することを強く要望する意見書を提出することとし、9 月定例会議（令和 3 年 9 月 7 日）に全会一致で可決し、国に「新型コロナウイルス感染症対策におけるワクチンの安定供給を求める意見書」を提出しました。

また、神奈川県にも、議長及び開成町長が共同で副知事に「新型コロナウイルスワクチンの確保に関する要望書」を持参し、新型コロナウイルス感染症対策におけるワクチンの安定供給を求めました。神奈川県も即時にこの要望に対応を示し、開成町及び県内市町村のワクチン供給の実現につながりました。

（事績 2）住民に開かれた議会

（1） 広報は「読む」から「見る＝魅せる」時代へ

～開成町議会の広報は「ウェブサイト」と「広報紙」の両輪で推進～

世界中のニュース等が SNS でリアルタイムに発信され受取る時代。議会活動は、年 4 回発行の広報紙と町ホームページで発信していました。開成町議会は、「情報を迅速に届けたい、そして、紙や町ホームページの広報を見ていただくときは、議会から一方的に議会活動を文字で長々と発信するのではなく、議員から話しかけたい、議員の言葉で発信したい。」この思いを実現する取組みの一つが、「読む」広報から「見る」広報への変革です。

具体的には、令和 4 年 9 月に神奈川県内町村初となる議会独自のウェブサイトを開設しました。「見る」広報（ウェブサイト）とは、多様な動画を取り入れた「見る」ウェブサイトであり、具体的には、令和 4 年 6 月定例会議から、一般質問を行う議員が一般質問の内容を 1 人 20 秒でまとめた予告動画を掲載し、本番の一般質問終了直

後にも、手応えや質疑内容等の感想を1人20秒でまとめた突撃インタビュー動画も掲載しています。

「読む」から「見る」とは、町民に「読ませる」だけでなく、「見せる＝魅せる」、そして、議員の言葉、表情を通して町民の代表である議員の「ありのままの姿・直接話しかける姿」で発信していくことも意味します。今後は、各種委員会の内容、賛否表も議会広報紙で発信するだけでなく、タイムリーに議員が説明する動画を掲載していきます。

また、新設したウェブサイトは、「見やすさ、分かりやすさ、探しやすさ」を重視し、2クリックで得たい情報にたどり着くウェブサイトとしています。今までは、得たい情報にたどり着くまでに、約4回のクリックが必要であったため、見やすさ、分かりやすさに加え、探しやすさを重要視して制作しました。

さらに、情報の迅速発信や見やすさなどを重視しただけでなく、全ての人に優しい「ユニバーサルデザイン」のウェブサイトとして開設しました。

ユニバーサルデザインであるかは一見、分かりにくいですが、視覚では、色の組み合わせによりウェブサイトのバリアフリー化を実現しており、聴覚では、一般質問に字幕をつけてインターネット配信を実施しています。ただ開設した訳ではなく、開成町議会として、誰に対しても開かれた議会であることを、この独自のウェブサイトを通じて表現したい一心で制作に取り組みしました。

また、新たにキッズページを新設しました。「議会」という言葉だけでは、子どもが難しいと感じてしまうことも想定し、議場体験ツアーなどのコンテンツやクイズマスターなどのコンテンツを取り入れ、小学校（中・高学年）でも楽しみながら「議会」を知り身近に感じてもらえる内容となっています。

キッズページには、議会ミニゲームのコンテンツも鋭意制作中です。毎日見てもらえるウェブサイト、飽きずに親しみやすいウェブサイトであり続けるため、これからも多くのご意見を取り入れながら、議員及び議会事務局一同で、より身近なウェブサイトとなるよう制作を進めてまいります。

広報紙の良さを十二分に発信するために

議会広報紙「ギカイだより」は、昨年、全国町村議会議長会広報コンクールにおいて、奨励賞を受賞しました。受賞した広報紙（A4判）は、令和4年5月1日発行の211号から、見開き一枚のタブロイド判に紙面を変更しました。

変更した理由は、町民に、紙（広報紙）で伝えることが相応しい内容と、前述のウ

ウェブサイトにおいて「動画」で迅速に伝える内容を、しっかりすみ分けすべきと判断したからです。

現在、タブロイド判の紙面を生かして、A4判ではできなかった紙面構成のもと、町民の皆様がまずは手に取り、1ページめくっていただくことを意識し、そして、今後、ウェブサイト内で「動画」で発信したほうがより効果的である内容を考慮し紙面構成しています。

今まで、一般質問のページは、約12議員分の質問に5～6ページを割いていましたが、ウェブサイトの字幕がついた録画配信に誘導し、より詳しく見ていただけるよう、各議員の一般質問内容は完結に掲載し、その変わりとして、随所に録画配信QRコードを貼り付けることにしました。その結果、一般質問は1ページとなり、「読む」・「見る」のすみ分けを実践しています。

また、一般質問を町の総合計画の章ごとの項目に分類し、ギカイだよりを手にとって見ていただいたときに、一目で興味関心がある内容を探していただけるように工夫しております。

令和4年5月1日号(210号)では、見開きとなる2・3ページの枠を取り払い、中央に議員の写真を配置し、紙で伝えることが効果的である予算質疑の詳細内容を掲載しました。

令和4年8月1日号(211号)では、令和4年6月定例会議において、日曜議会を開催しましたが、議会初となる託児サービスを実施したことを大々的に伝えなかったため、トップページ(第1面)を横に使いました。

日曜議会と託児サービスにより、幅広い世代の町民に議会をより身近に感じてもらいたいことを紙でよりよく伝えるためには、タブロイド判を横に使うことが視覚的有効ではないかと判断したからです。

また、6月定例会議は、日曜議会の開催だけでなく、町の花「あじさい」を議場各所に飾り付けし、「あじさい議会」として開会しました。「あじさい」は、町民の方が大切に育てている花をお借りしました。本会議の議会広報紙「ギカイだより」も、あじさいカラーでまとめており、多くの町民の協力により、ギカイだよりが制作されていることを実感できる号となりました。

今後も、まずは手に取ってもらう、1ページめくってもらうことを意識し制作してまいります。

開成町議会の広報は、見る「ウェブサイト」と読む「議会広報紙」の両輪で開かれた議会を追求し続けます。

(2) 日曜議会と無料託児サービスの実施により、開かれた議会へ

令和4年6月定例会議第2日目(令和4年6月19日)において、新型コロナウイルス感染症の影響で止む無く開催を見送っていた「日曜議会」を、令和2年5月に供用開始した新庁舎で初めて開催しました。既にインターネットライブ配信を実施しておりますが、議場では、ライブ配信では味わえない臨場感があります。平日に仕事や学校などの事情で傍聴できない方にも、一人でも多く傍聴してもらいたいという思いがあります。

また、子育て世代にも「日曜議会」に足を運んでもらいたいと、町役場庁舎内にあるキッズコーナーで保護者が議会を傍聴中に保育士が子どもを見守る新たな取り組みも議会では初めて実施しました。当日は、3名の託児サービスの申込みがあり、保育士に安心してお子様を預け、ゆっくり議会を傍聴していただきました。今後も、幅広い世代の町民が、議会身近に感じ、関心を持ってもらう政策を進めてまいります。